

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(4月2日～4月8日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。4月2日から4月8日までに4661件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは、ありませんでした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(4月2日～4月8日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	68	0	—	栃木県	農産物	134	0	—
	畜産物	330	0	—		畜産物	301	0	—
	水産物	226	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	1	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	3	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮城県	農産物	7	0	—	群馬県	農産物	0	0	—
	畜産物	155	0	—		畜産物	221	0	—
	水産物	63	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	0	0	—
茨城県	農産物	7	0	—	千葉県	農産物	3	0	—
	畜産物	290	0	—		畜産物	90	0	—
	水産物	13	0	—		水産物	2	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	0	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2017年 9月10日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月17日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月24日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 1日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 8日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年10月15日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月22日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月29日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月 5日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月12日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月19日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月26日	98.9%	1.1%	0.0%

2017年12月 3日	97.6%	2.4%	0.0%
2017年12月10日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年12月17日	99.6%	0.4%	0.0%
2017年12月24日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 1月21日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 1月28日	99.4%	0.6%	0.0%
2018年 2月 4日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 2月12日	97.9%	2.1%	0.0%
2018年 2月18日	100%	0.0%	0.0%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 3月18日	98.6%	1.4%	0.0%
2018年 3月25日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 4月 1日	99.6%	0.4%	0.0%
2018年 4月 8日	98.5%	1.5%	0.0%
2017年3月平均	97.0%	3.0%	0.0%

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。これで146週連続(約3年)となります。福島県の199検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類はいわき市のババガレイ、(12ベクレル/キログラム)広野町のアイナメ(10ベクレル/キログラム)、ババガレイ(6.7ベクレル/キログラム)でした。

(2)検査について基準を超えたものについて

ありませんでした。

(3)京都の空間線量(4月2日～4月8日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.038～0.039 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.045～0.046 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の10分の1くらいになってきました。しかし0.1 マイクロシーベルトを下回るところまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1)放射線のホント学ぼう 復興庁が小冊子発行、風評や偏見解消図る(河北新報より)

東京電力福島第1原発事故による風評や偏見、差別を解消しようと、復興庁は放射線に関する情報や知識を分かりやすくまとめた小冊子「放射線のホント 知るといふ復興支援があります。」を発行した。昨年12月に策定した風評払拭(ふっしょく)・リスクコミュニケーション強化戦略の一環。

放射線や放射性物質、放射能の意味や単位、放射線はうつったり、遺伝したりしないといった基礎を説明。放射線、生活習慣によるがんのリスク比較、世界で最も厳しいレベルの食品・飲料水の検査体制について図表やイラストを交えて紹介する。

A5判、30ページ。2000部を行政機関に配るほか、復興庁のホームページにも掲載した。小冊子に対する意見や要望を受け付け、今夏をめどに一般向けのパンフレットを作る方針。

吉野正芳復興相は「コミュニケーションの専門家にお願ひし、分かりやすくズバツと断言する形を採用した。より良いパンフにするため、皆さんの意見をお待ちしている」と話す。

以上